

環境大レポート

第28号

Mar. 2017

K A N K Y O D A I R E P O R T



地域の皆さんとともに地域資源を活かした活動を展開する「もちがせ週末住人」

特集

2 3

もちがせ週末住人

『経営』と『環境』の視点が組み合わさると
中山間地域が宝の山に！

就職支援

2016年度 内定速報

4 5

キャンパスピックアップ

第6回全国大学生マーケティングコンテストで大学の学生チームが、特別賞を受賞！
関西広域連合協議会若者世代による意見交換会プレゼンテーション
山陰未来ドラフト会議において 経営学部 新井ゼミ生が第2位「鳥取県知事賞」を受賞！

6 7

受賞関係

環大コンペ結果 / TUESカップ



鳥取県中部地震

環境学部 中橋 文夫 教授 / 環境学部 浅川 滋男 教授 / 環境学部 中治 弘行 教授

8



プロジェクト研究

地方創生に向けて平井知事のダジャレ・パタフライ効果を検証する

9



国際交流

清州大学への留学体験談 韓国での生活 / 韓国留学を通して

10



クラブ&サークル活動・学友会活動報告

ダンス部・生物部 / 第52回鳥取しゃんしゃん祭に参加して・環謝祭レポート

11



ESSAY

石炭鉱山を訪ねて 環境学部 横山 伸也 教授

12



人事報告

着任挨拶 経営学部 川崎 敏宗 講師



決算報告

2015年度 公立大学法人 公立鳥取環境大学 決算概要

13



お知らせ

大講義棟建築工事進捗状況 / 2016年度学部・大学院学位授与式

『経営』と『環境』の視点が組み合わさると中山間地域が宝の山に!

もちがせ週末住人



▲ もちがせ週末住人とは

鳥取市用瀬町は、鳥取市の南部に位置し、山に囲まれた人口約3700人の小さな田舎まち。私たちはこの地域で「もちがせ週末住人」と名乗り活動しています。中山間地域は寂れているというイメージを持つ人もいかもしれませんが、実際に町に入り込んでみると、違うことに気付きます。用瀬町は面白い住人の皆さんや、伝統的な文化が残っており、隣・近所の人たちを温かく見守る魅力的な町です。毎週末に住人の一員として、地域に入り込み活動している私たちは、町の資源を魅力的な体験メニューに変え、宿泊と体験を通じて町を満喫してもらう事業に取り組んでいます。

岩田 直樹、松浦 生、市川 晴菜の3名が中心となり、2016年の2月から約1年間にわたり用瀬町で挑戦を行っています。一番大切にしている想いは、関わる全ての人が「ワクワクすること」。自分達も、住人も、旅人も、思わずワクワクしてしまうことを、地域イベントの参加やイベント主催、地域資源を宝に変える体験メニュー作りなど、『経営』と『環境』の視点を組み合わせて創っています。公立鳥取環境大学で学び、用瀬町で活動しないと出来ない取り組みだと確信しています。

▲ もちがせ週末住人のこれから

2017年1月22日(日)に「体験と民泊 もちがせ週末住人の家」をオープンしました。ここでは宿泊とセットで、用瀬町の自然や文化・人との交流を楽しめるメニューを20種類以上用意。農業体験や林業体験だけではなく、窯元で干支の置物作りや靴工房でコースターづくりなど地元のお店と連携した体験メニューや、増え続ける空き家を、参加者それぞれの得意分野を活かしたアイデアと活動でワクワクする空間に変える空き家ワンダーランド等のメニューがあります。

また、用瀬アルプスといわれ最近人気のある軽登山を地元ガイドの人と一緒に巡る体験や、動物の痕跡を探すアニマルトラッキング、山に落ちているモノを拾ってアクセサリーづくりなど、登山初心者の方でも思いきり山を楽しむことができるメニューもあります。

さらに、自分で収穫した野菜と自分で作った食器を古民家カフェに持ち込んでオリジナルのランチメニューを食べる体験も開発中。今後も様々な田舎の楽しみ方を発掘していきたいと思います。日帰りでは楽しきれないことでも1泊2日・2泊3日なら可能です。宿泊と体験を通じて、心からワクワクする時間を創っています。

もちがせ週末住人がこれから目指すのは、一度用瀬町を観光で訪れた人が、何度も訪れたい用瀬町にすることです。一度訪れただけでは楽しきれない魅力と可能性が用瀬町にはあると思います。次に訪れた時には、こんなことをしてみたいという想いを一緒になって叶えていくことで、用瀬町へ行けばこんな事が出来そうというワクワクを多くの人に感じてもらえたらと思っています。そうして何度も訪れるうちに、週末住人となって用瀬町が第二の故郷のように思える場所になっていってくれればと願っています。

大学の講義と起業部でノウハウを積み
「もちがせ週末住人」として地域で実践を!!

▲ 「経営」視点の学び

『もちがせ週末住人』の活動の原点となっている組織、それが起業部です。2014年6月に立ち上がったこの団体は、大学で学んだ知識の実践と、地域資源を使って新たな活動を創ることを目的としています。この団体で身につけた『企画を立案する力』『企画を実践する力』『鳥取で動いて知った生の情報』が、今の活動の原点になっています。

岩田 直樹 (経営学部 3年)



▲ 「環境」視点の学び

1年生のときに、八頭町の山間にある集落で子どもたちが自然の中で自由に遊んだり、自然を感じる場をつくる取り組みに関わりました。またその活動の中で、地域の高齢者や中高年の方々とともにイベントなどを行うことも多く、そういった方々と話をする中で、地域に眠る資源についていろいろ気づきを得ました。1年生のうちに「地域に入りこむ」という経験がこの活動に活かされています。松浦 生 (環境学部 2年)



▲ もちがせ週末住人のこれまでの取り組み

『もちがせ週末住人』の取り組みは、地域に入り込むことから始まりました。地元に入り色々なことを教えてもらう中で、自分で企画してこんなことをしたいというアイデアが浮かび実現させてきました。まだまだ行いたい活動はたくさんありますが、地域の方々、大学の教職員の方々、チームメンバーの協力無しでは実現できない活動だったと思います。



第一弾

「週末住人と出会う」

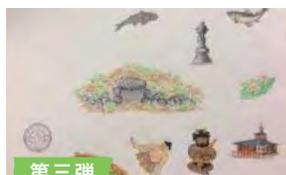
チラシを作り、始めて会う住人の方々に自己紹介をしながら、今後こんなことをやりたいということを語りました。



第二弾

「週末住人にあげる」

住人の方々に不用品募集を呼びかけ、出来るだけ物を再利用し活動拠点を作りました。



第三弾

「手作りマップの作成」

大学生約10名に町歩きをしながら白地図に自分の目で見えた町をメモした後、全て手作りのマップを作成。



第四弾

「週末住人と明治大学の学生と語る」

東京の明治大学生の方々を用瀬町に招き今後一緒に出来ることについて話し合いました。



第五弾

「ドローンに出会う」

ドローンを使って用瀬の町を上空から撮影し、用瀬町や私たちを紹介する動画に活用。



第六弾

「用瀬の農産物で屋台出店」

用瀬町の特産品である特別栽培のお米やお茶を使ったお菓子を作り、地域のイベントで販売しながら交流しました。



第七弾

「週末住人と体験メニューをつくる」

地域の方々の声を聞きながら、町内を訪れた人が楽しめるアイデアについて話し合いました。

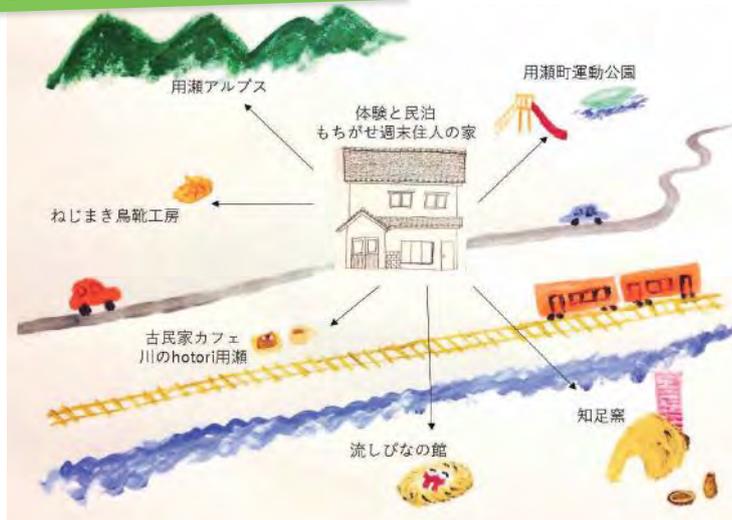


第八弾

「空き家ワンダーランド」

空き家をワクワクする空間に変えるイベントで、子どもたちに楽しんでもらえる1日限定の駄菓子屋が誕生。

週末住人の家 体験マップ



これまでの活動と今後の予定

体験と民泊
もちがせ週末住人の家
ホームページ



<http://mochigase-hitotoki.com/>

もちがせ週末住人
facebook



“もちがせ週末住人”で検索!

合格

長崎県庁



坂本 和樹さん
(長崎県立大村高校出身)

山に興味があり本学へ入学
その意志を買き林業の技術職に

父も県の林業職で、山登りに連れて行ってくれるなど、昔から山に興味がありました。その思いは変わらず、本学入学と同時に目標を林業の技術職に。大学では1年から公務員講座を受けるなど、4年間コツコツ勉強を継続。ハイレベルな勉強を続けるためにも、面接で心が折れないためにも、自分の振り返りをしていました。山が好きになったキッカケ、中学・高校での思い、大学選びのことなどを思い返して、信念がぶれないよう強くしました。将来は人や街を守る陰の立役者である山を管理し、魅力を発信していきたいです。



林業職に携わるうえで役立つ小型車両系の特別講習を受講しています。

内定

日本ミクニヤ



竹中 美紀さん
(京都府立久美浜高校出身)

潜水士の資格を取得したことが
環境系企業への就職に役立ちました

環境やジオパークを学びたくて入学したので、就職も環境系の企業を志望していました。泊漁港の海草について研究するため、先生のすすめもあり潜水士の資格を取得。多くの企業から興味を持たれ、会話のきっかけができました。「環境分野の学びから生まれた疑問を、自ら解決するために行動したことが役に立った」と実感。企業説明会や試験が東京や大阪など遠方であったので、交通費補助やバスチケット、宿泊費補助なども助かりました。仕事においては、多くの人と出会い知見を広げた上で、環境を上手く利用していきたいと考えています。



卒業論文の作成のために、アマモ場における調査を行いました。

山陰酸素工業 内定



藤野 春さん (鳥取県立米子工業高校出身)



就職活動中に仲間と悩みを相談し合ったことで頑張ることができました！

熱意は企業研究に表れる！
山陰両県の就職にも強い！

チャーターバスで大阪・岡山の合同セミナーへ。山陰の企業も参加されており、話を聞くうち「地元で就職しよう」と決意。西部サテライトキャンパスは米子や松江の企業に詳しく、大きな助けに。新規事業やイベントなどを細かくチェックするなど企業研究はしっかり！それが熱意となって伝わるし、新規事業の質問などをするとやる気があると思われず。

大阪府中学校教諭(理科)合格



後藤 力哉さん (兵庫県立姫路飾西高校出身)



ボクシングを続けてきたからこそ、教員採用試験に合格できました。

関西オフィスでは採用試験の
元面接官から指導を受けられる

教職課程とは別に理科の勉強などを早めに行いました。3年生の12月には大阪府の教員チャレンジテストを受け合格。一次の筆記試験が免除になり、4年生の8月に行われる二次面接に注力できました。大学でもいろいろなアドバイスをいただきましたが、関西オフィスには教員採用試験の元面接官の方が在籍。面接の指導をしていただき、とても心強かったです。

大田市役所 合格



添谷 彩加さん (鳥根県立大田高校出身)



ジオパークを研究されている新名先生と兵庫県の玄武洞に行ってきました。

就職活動は一人じゃない
いつでも学務課に頼っていい

就職活動がうまくいかず落ち込んでいました。そのような中「頑張ろう」と思えるようになったのは友人や学務課の職員のおかげ。いろいろな相談をするうちに視野も広がり、人のお世話をするのが得意なことに気づきました。それで9月に公務員試験を受け、地元の市役所に合格。大学での経験を活かし、地域を支える責任感ある人材を目指します。

2016年度内定者実績 (2017年2月20日現在)

【公務員】愛媛県庁、大阪市教育委員会、大阪府教育委員会、大田市役所、佐賀県教育委員会、全国町村会、鳥取県警察、長崎県庁、日向市役所、兵庫県庁【一般企業】(農業・林業)西日本ジェイエイ畜産(漁業)弓ヶ浜水産(建設業)イビデングリーンテック、九州林産、三和電業グループ(製造業)アルボレックス、井関重信製作所、ウッドリンク、共興製鋼、ジャパンマテックス、スズキ、セイパン、ゼニス羽田、太洋工作所、大和冷機工業(情報通信業)日本ラッド(卸売業・小売業)アンデルセン、イオンリテール、グラセル、コスモス薬品、佐渡島、山陰酸素工業、しまむら、生活協同組合ひろしま、大黒天物産、天満屋、中井工業、日本食研ホールディングス、平林金属、PLANT、ヤマエ久野、ヨドバシカメラ(金融業・保険業)愛知県農業共済組合、アサヒホールディングス、おかやま信用金庫、京都中央信用金庫、但馬銀行、鳥取銀行、西兵庫信用金庫、明治安田生命保険相互会社(不動産業・物品賃貸業)スゴールディングス(学術研究・専門・技術サービス業)カイタック、日本ミクニヤ、非破壊検査(医療・福祉)日本ステリ(複合サービス事業)徳島県土地改良事業団体連合会、福山市農業協同組合、真庭農業協同組合(サービス業(他に分類されないもの))三光、東洋産業【進学】静岡大学大学院、信州大学大学院、兵庫県立大学大学院、福岡教育大学大学院、北海道大学大学院 ほか

※企業名は業種別50音順/株式会社等省略

公立鳥取環境大学 合格



生島 湧気さん (鳥取県立鳥取東高校出身)

春から本学の
職員として頑張ります！

内定

SMBC日興証券



益本 省吾さん
(鳥根県立浜田高校出身)

鳥取をキャンパスに学んで
地方大学にいることを強みに!

「田舎の学生はいい子が多いけど、アグレッシブさが足りない」と面接でいわれドキッ。「でもキミは違うね」と続けられ、バイク旅、祖父との猟、週末いろいろな大人の方と会ったりしてよかったです。本学に進めばプロジェクト研究や卒業論文など、鳥取をキャンパスに社会参加したり、大人の方と話をしたり、いくらでもアグレッシブになれます。しかも田舎の人は学生を大歓迎。素晴らしい経験がたくさん積めるはず。地方大学にいることは弱みではありません。都会では経験できないことを強みに、夢へ進んでください。



友人たちと徳島県のかづら橋に行った時の写真です。

内定

大和ハウス工業



坂林 みのりさん
(鳥取県立倉吉西高校出身)

営業職なら支店長以上の夢を
大手こそ求めていると思う

履歴書を送り、Webテストを受けると1次面接の連絡がきました。家づくりにならずさわりたい、転勤も大丈夫という熱意で、2次・最終面接、内定へとたどり着けたと思います。面接で「支店長を目指します」と答えると、「もっと上を目指してほしい」とのこと。私たちへの期待を強く感じました。こうして志望が叶ったのも支えがあったから。履歴書や面接の不安は学務課の職員の指導で解消。大阪まで何度も通ったのでバスチケットも助かりました。他にもサポートは万全です。大きな目標を掲げ就職活動に臨みましょう。



仲の良いメンバーで神戸ミナリエを見に行きました。

三菱電機ビルテクノサービス 内定



中井 芳紘さん (静岡県・磐田東高校出身)



音楽の話で面接担当者と盛り上がることもありました。

関西・岡山オフィスもある 有名企業にチャレンジしよう

3年生の2月に1dayインターンシップで有名企業に行き、「こんなところで働きたい」とチャレンジ精神が湧いてきました。それで履歴書づくり、SPIの勉強、企業研究を真剣に行うように。関西オフィスは特に利用しました。第一志望の企業から内定をいただけたので、今では私の縁起のいい場所です。早め早めの行動で、大きな夢をつかみましょう。

鳥取銀行 内定



笠松 樹さん (鳥取県・鳥取城北高校出身)



友人や先生など周りの人たちを巻き込んだ就職が成功の鍵となりました。

鳥取愛&自分の強みをアピール 大学ぐるみの支援で1社目合格

私の就職活動は履歴書をつくることから始まりました。自分の強みがわからなくなったり、志望動機に自信がなく、学務課の職員に相談。温かく的確なアドバイスをいただきながら何度も添削・相談を繰り返すうち、見えなかった自分が見えてきて自信に。地元だけに鳥取の企業情報も豊富で、大学ぐるみの支えが1社目合格につながったと思います。

東陽 内定



木村 美月さん (愛知県・愛知教育大学附属高校出身)



大学祭の実行委員長として、みんなと協力して成功させることができました。

3年の就職合同合宿はおすすめ Uターンで愛知の商社に内定

3年生の過ごし方は人生に大きな力を与えてくれます。1か月の米国留学、就職合同合宿などが私の就職活動を支えてくれました。また、企業の探し方や絞り方、面接のコツなど専任の先生ならではのアドバイスも強い味方に。いろいろ迷い、愛知県内で就職活動を始めたのは7月と遅くなりましたが、世界で活躍できる企業に内定をいただき、とても満足しています。

鳥取県内を中心に企業と公務員を並行して就職活動を進めました。学内の公務員試験対策講座や面接練習が充実していたため、万全に準備できた体制で就活に取り組みました。また、頻りに面談をさせてもらい、本当に多くのサポートをしていただきました。学生の目線で学んできたことを糧に、4月からは今度は私が学生をサポートする形で、公立鳥取環境大学に恩返ししたいと思っています。

2016年度内定者実績 (2017年2月20日現在)

【公務員】鳥根県警察、鳥取県警察、美祿市役所【一般企業】建設業)セキスイハイム中四国、大和ハウス工業(製造業)アグリテック/矢崎、寿製菓、ダイヤテックス、日本精糖、マルサンアイ鳥取(運輸業・郵便業)アートコーポレーション、エフピコ物流、九州旅客鉄道、西日本旅客鉄道、日本郵便、ヤマト運輸(卸売業・小売業)エディオン、光文堂、ジュンテンドー、生活協同組合おかやまコブ、セブン-イレブン・ジャパン、ツリノグループドラッグ&ファーマシー西日本、東陽、中島商会、パナソニックコンシューマーマーケティング、山屋屋、ローソン(金融業・保険業)あいおいニッセイ同和損害保険、オリエンタルコーポレーション、SMBC日興証券、関西アーバン銀行、倉吉信用金庫、山陰合同銀行、大山日ノ丸証券、玉島信用金庫、徳島信用金庫、鳥取銀行、鳥取県信用農業協同組合連合会、鳥取信用金庫、百十四銀行、碧海信用金庫、ゆうちょ銀行、米子信用金庫(生活関連サービス業・娯楽業)エイチ・アイ・エス(教育・学習支援業)近宣、公立大学法人公立鳥取環境大学(複合サービス事業)鳥取いなば農業協同組合、みのり農業協同組合(サービス業(他に分類されないもの))鳥取市環境事業公社、三菱電機ビルテクノ/サービス ほか

※企業名は業種別50音順/株式会社等省略



Campus Topics

第6回全国大学生マーケティングコンテストで 本学の学生チームが、特別賞を受賞!



2017年1月21日(土)、神戸市外国語大学で開催された「全国大学生マーケティングコンテスト(MCJ: Marketing Competition Japan)」に、本学の学生チームが応募、全国30チームの中から慶応義塾大学や、関西大学等のチームと共に、8チームのファイナリストに選ばれ、決勝大会で特別賞を受賞しました。MCJは2011年度から神戸市外国語大学の主催で行われており、毎年異なるスポンサー企業の商品をテーマにしたマーケティングプランを作成し、英語でプレゼンテーションを行うコンテストです。

このMCJは全国の大学生に、企画立案、発表といった過程を通して論理的思考力、メディア対応能力、コミュニケーション能力、英

語力などを向上させる機会を提供するとともに、学生の目線から地元企業へ提言を行うことで地域経済の活性化に貢献することも目指しています。全国各地から有名大学が参加し、経済産業省からも後援を得ている全国規模のプレゼンテーションコンテストに本学の学生チームが初出場ながら決勝に残り、特別賞を受賞したのは快挙です。

今年度のテーマは「豊岡鞆」で、豊岡市の一部である城崎温泉に外国人観光客が急増していることに着目し、11月に実際に城崎で外国人にアンケート調査を行った結果に基づき、城崎にアンテナショップを開き、豊岡鞆の質の高さ、機能性を知ってもらうために、鞆作りのワークショップを行う等のプランを提示しました。審査員からは現地でのアンケート調査や、その分析からプラン作成に至るまでの論理的な展開が高い評価を得た、というコメントをいただきました。



チームTUESメンバー

高橋 美佐紀 (環境学部 3年) 中川 伸子 (経営学部 3年)
堀田 楓 (環境学部 1年) 平木 麻奈美 (経営学部 1年)

第13回 環大コンペの結果について

環大コンペとは「公立鳥取環境大学を支援する会」主催のイベントで、地域社会に貢献する企画を学内から募集して、優秀企画(団体)を表彰し副賞を授与するものです。

今年度は8団体から10企画の応募があり、書類審査、プレゼンテーション審査を経て、下記のとおり入賞企画が決定しました。2016年12月27日の受賞式では、同会の英(はなふさ)会長より、「前回以上に素晴らしい企画が多かった。地域とのかかわりは大きな力となり、少し視点を変えるだけでも様々な活動に繋げることができる。今後も大いに活動を広めていってほしい」と激励の言葉をいただきました。受賞者の代表は「学部の特性を活かし『環境と経営』双方の視点に立った取り組みを実践していきたい」と決意を新たにしていました。

【第1位】(賞金10万円)

地域に入り込み、
町を一緒に創る
『週末住人』三人組

団体名: 週末住人

【第2位】(賞金8万円)

ゴミ×バト

団体名: 泉研究室

【第3位】(賞金5万円)

大阪府大正区観光マップ作成

団体名: 新井ゼミ

【奨励賞】(賞金1万円)

青谷地域おこしイベント『あおいち』

団体名: 泉研究室

しゃんしゃんミニ傘プロジェクト

団体名: 泉研究室





Campus Topics

関西広域連合協議会若者世代による意見交換会プレゼンテーション



2016年9月9日(金)、徳島グランヴィリオホテルで開催された、若者世代による意見交換会(関西広域連合協議会主催)のプレゼンテーションで経営学部3年生4名のチームが最優秀賞を受賞しました。

この意見交換会は、関西広域連合協議会が次期広域計画の策定等にあたり、広域連合施策への若者の参画を促すことにより、関西広域連合を身近に感じてもらい、若者世代への広域連合施策の見える化、広聴機能の充実を図るために開催されたものです。

学生は7月から鳥取市役所・鳥取県庁・鳥取ハイヤー共同組合・鳥取市国際観光客サポートセンターの方々へのヒアリングを行い、考えた「『地方都市』におけるインバウンド対策 観光タクシーとSNS情報発信による周遊型観光の推進」のプランを発表し、「人が巡る、人が集う、人が育つ関西の創造について」をテーマとする関西広域連合の方々から高評価を頂きました。

メンバー(全て経営学部 3年)

岩田 直樹 玉置 はるな 中川 伸子 宮川 惇

Campus Topics

山陰未来ドラフト会議において 経営学部 新井ゼミ生が第2位「鳥取県知事賞」を受賞!



JR西日本の豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス瑞風」が2017年から山陰本線などで運行を開始するのに向けて、山陰の大学生達が地域活性化のプランを競う「山陰みらいドラフト会議」(JR西日本主催)が、2016年11月13日に米子ガイナックスシアターで開催され、経営学部・新井ゼミのチームが第2位の「鳥取県知事賞」を受賞しました。

新井ゼミチームは、地域住民や大学生を対象に実施したアンケート調査の結果をもとに、地元の大学生に何が出来るかを考察した上で、「瑞風」の停車する東浜駅の所在する岩美町において地域活性化に取り組む人・団体の活動に焦点を当てたPR動画制作を行う企画案「届け!瑞風に寄せたわたしたちの思い」を提案しました。その上で、実際に新井ゼミ生が撮影、編集し制作した動画を映写し、実現の可能性が高いプランとして審査員から高い評価を受け、第2位の「鳥取県知事賞」を受賞しました。

メンバー(全て経営学部 3年)

石井 里奈 川原 叶 林 徹
板倉 慶征 佐々木 夏穂 古園 望海
入川 滉平 鈴木 健太
音田 日菜子 中川 伸子

第13回全国高校生環境論文TUESカップ

日本全国の高校生が地球環境問題を考え、将来の環境保全及び環境問題解決の担い手となるきっかけづくりを目的として、毎年「全国高校生環境論文TUESカップ」を開催しています。

13回目となる本年度は高校生が自由な視点で環境問題をとらえ、考えることをねらいとして、テーマを設けず広く論文を募集し、全国17都道府県、計30校から98作品の応募をいただきました。

応募作品の中には、環境によいとされるリサイクルの効果に疑問を感じ自ら検証しようとしたものや、地域の企業や外部団体等を訪ね、情報収集や環境活動に熱心に取り組んだものなど、高校生らしい若さ溢れる斬新な発想や行動力を発揮された作品が多くありました。

これらの中から4点の受賞作品を選出し、2016年11月26日(土)に鳥取市内(とりぎん文化会館)で入賞論文の発表会と表彰式を行いました。



【環境大賞】

3Rを見直す ~リサイクルは本当に環境に優しいか~

北海道札幌南高等学校 佐藤 たまおさん

エコの原則とされている3R(reduce, reuse, recycle)のうちリサイクルの効果に着目し、実際にリサイクルが環境に優しいかどうか、環境負荷の面から検証しました。筆者の調査では、新製品を作るより、リサイクル製品を作る方が環境負荷がより大きくなることもあることが分かり、これまでの常識を覆す結果となりました。

ほか 鳥取県知事賞1作品、鳥取市長賞1作品
新日本海新聞社賞1作品



鳥取県中部地震からの復興支援に向けて

2016年10月21日に鳥取県中部を震源地とする大きな地震がありました。このたびの震災で被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。この地震による本学での影響は全くありません。

今回は鳥取県中部地震からの復興に向けて、現在調査・支援をされている3名の先生方にお話を伺いました。



減災の秘訣は歴史と緑の隠し技にあり



環境学部
中橋 文夫 教授

2016年10月21日、ゴーツという地鳴りがキャンパスを襲った。鳥取県中部地震である。目立つ被害はなかったが、倉吉の白壁土蔵群では壁が剥がれ、屋根瓦が落ち、墓石が転倒した。しかし鳥取市青谷町の建山神社の石工・川六(尾崎大郎兵衛)が手掛けた狛犬はびくともしなかったとNHKニュースが報じた。説明に造園研究山水会で共にする作家、青木清輝さんが登場された。狛犬の台座部を丹念に調べられ、狛犬の足部と台座を「相欠」という手法で繋いでいたのが効いたのではと結論付けられた。また、鳥取市気高町の八幡神社の狛犬の台座は「ホゾ」という手法で横ズレ対策がなされており(写真)、幕末から今日に永らえた技がここにある。



八幡神社の狛犬の台座と台座の間にある凸部分の横ズレ対策(青木清輝氏提供)▲

熊本地震の調査では、倒れかけの家屋を庭木のマキがつかい棒となり倒壊を防いだ。熊本城のクスの根が地中に張り巡り、その緊縛作用が土砂の崩壊を防いだ。緑にも防災機能があったのである。狛犬の台座同様、何れも温故知新の隠し技で、減災の視点がここにある。

被災した未指定・未登録文化財に支援を！



環境学部
浅川 滋男 教授

鳥取県中部は文化遺産の宝庫であり、本学開学以前から歴史的建造物の調査に携わってきた。湯梨浜町の「橋津の藩倉」「尾崎家住宅」、倉吉の伝統的建造物群(町並み)などがその代表であり、調査後、多くは国や自治体の指定・登録を受けている。今年度は国登録文化財申請をめざして倉吉市河原町・鍛冶町にたつ2軒の町家に焦点を絞り、研究室をあげて調査研究に取り組んでいる。その矢先に鳥取県中部地震が発生し、町家の土蔵(空家)で白壁が崩落し、瓦屋根がずり落ちてしまい、今はビニールシートに覆われている。こうした調査の中途段階で被災すると、国や自治体の救済措置の対象とならない。そこで、私たちは講演会等を利用して被災建造物に係わる報告書を販売し、売上金を対象家屋の所有者に直接寄付する活動を始めた。ところが、被災の影響で所有者は動揺しており、寄付を受け取られはしたが、いったん逡巡されたのである。破損は大規模ではないが、修理代は安価なわけではない。修理すべきか撤去すべきか、悩ましいと思われる。私たちは今後も支援活動を持続し、修復保全の道筋をつけたいと願っているが、なにより行政は、保全が担保された文化財建造物だけでなく、未指定・未登録の価値ある遺産にも目を配り、歴史都市「倉吉」の未来を再構想すべき好機と考えるべきであろう。

木造建物の地震被害を減らすために



環境学部
中治 弘行 教授

そのとき、若葉台でも震度5弱の揺れが1分近く続いたように思う。翌日の朝から鳥取県東伯郡湯梨浜町、倉吉市、北栄町にかけて震源地周辺の被害状況の調査に当たった。木造建物を中心とした目視による外観調査であったが、正直なところ、最大震度6弱程度でこんなに屋根瓦が落ちたり土蔵が倒壊したりするものだろうか、とショックを受けた。と同時に、家屋の倒壊などによる死傷者がほとんどいなかったことに安堵した。この冬には数年ぶりの大雪もあり、地震被害からの復旧・復興作業も難航すると考えられるが、「元に戻す」以上に、「次には同じようなことを起こさない」工夫が必要だろう。木造建物では「壊さない」よりも「壊れたら直す」が実現しやすいので、被災建物を減らすためにできることを続けなければならない。



壊れるが直せる土蔵(10月22日倉吉市で撮影)▲



プロジェクト名

地方創生に向けて平井知事のダジャレ・バタフライ効果を検証する

2015年、スターバックスコーヒーが鳥取県にオープンしました。その時には、「スタバはないけど日本一のスナバはある」という平井鳥取県知事のダジャレと、すなば珈琲が全国レベルで有名になりました。今回のプロジェクト研究では、その平井鳥取県知事のダジャレが、どのような効果を与えたのか、地方創生にはどうしていくのが必要なのかを調査しました。



▲ まとめにに向けた話し合いの様子

まず、自分たちが知っている平井知事のダジャレについて話し合いました。話題が上がったダジャレの中から、「スタバはないけど日本一のスナバはある」、夏に大きなブームを巻き起こしたポケモンGOについてのダジャレ、「スナホ・ゲーム解放区宣言」など、できるだけタイムリーなダジャレを調査対象としました。調査としては、店の前で街頭アンケートや、学生アンケート、Googleを利用した全国へのアンケートを行いました。他にも、実際に鳥取砂丘へ自分たちが行き、周辺施設への聞き取り調査や、鳥取県庁広報課への取材など、アンケート以外にもさまざまな調査を行いました。



▲ 研究の成果を発表しました。

調査にはしっかりとした事前準備が必要です。どのような狙いで、何を聞きたいのか、どのような回答方法ならたくさんの人に回答してもらえるのかなど、たくさんをメンバー内で話し合いました。このプロジェクト研究のテーマは経営学部のテーマですが、環境学部のメンバーが話し合いを引っ張っていき、学部関係なく全員で行いました。実際の調査では、街頭アンケートを断られてしまうなど、うまくいかないことも多くありました。

実際、目に見えない効果を、どのようにして目に見える形であらわすのか、その部分が最も難しかったです。得られた調査結果から、率直な感想、意見を話し合い、結論としてまとめました。

最後に、この研究は、決して簡単なものではありませんでした。たくさん悩み、話し合ったからこそ、よい結果を出すことができたと感じています。すべてやり終えたときには、大きな達成感が得られました。

代表：持丸 結衣（環境学部 2年）

プロジェクトアドバイザー 経営学部 泉美智子 准教授

プロジェクトメンバー
 プロ研2：金森勇太、川北咲来、神志那司（環境学部）／佐野ちひろ、柴田朋輝、瀬尾翼（経営学部）
 プロ研4：松浦生、持丸結衣（環境学部）
 春日友輔、桑原寛人、財津宗治、西田佳寿美、花岡みなみ（経営学部）

国際交流



韓国での生活

2016年3月から私の留学生活は始まりました。清州大学には日語日文学科があり、友達をたくさん作り、困った時は助けてもらったり、一緒に活動に参加したり、たくさんの思い出を作りました。おかげで1年間勉強もしながら、韓国生活を充実させることができました。留学は、語学を学ぶとともに韓国の文化にも実際に触れることができたので、良かったです。この韓国留学プログラムを在学生の皆さんにおすすめしたいです。

吉澤 優（経営学部 2年）



韓国留学を通して

私は韓国で生活を送りながらさまざまな体験をしました。日本語学科の先輩や友達と共に演劇をしたりご飯を食べに行ったりと、韓国語を使う機会も次第に増えていき韓国語の実力も確実に伸びたように思います。韓国にしかない料理を食べたり、日本とは違う文化にもたくさん触れる事が出来ました。日本で生活しているだけでは出来なかった経験をたくさん吸収することができ、満足のいく1年を過ごす事が出来ました。

田中 東子（経営学部 2年）





ダンス部

私たちダンス部は現在18名で活動しています。部員のほとんどが大学までダンス経験のない初心者ですが、部員同士で意識を高め合いながら、日々の練習に取り組んでいます。

ダンス部にとっての一大イベントは、毎年10月に行われる環謝祭でのステージ発表です。環謝祭前は毎日夜遅くまで練習をします。夜遅くまでの練習は、体力的にも精神的にも辛いときがありますが、本番での達成感は忘れられません。

学内だけでなく、大学外で行われるイベントにもたくさん参加しています。また、ダンスを通して積極的に他大学のダンス部や外部のダンサーたちと交流もしています。

18名と人数が少なく、小規模な部ですが、少ないからこそ部員一人ひとりの距離が近く、一緒にいる時は笑顔が絶えません。これからも仲良く練習に励みながらダンスの楽しさをみなさんに感じていただけるように頑張っていきます。

代表:吉田 珠友紀(経営学部 2年)



生物部

私たち生物部は、30人以上の個性豊かな部員とともに鳥取の豊かな自然の中で活動している、公立鳥取環境大学でも少し変わった文化系かつ体育会系な部活です。毎月一回、様々なフィールドで生物調査や捕獲を行っています。それぞれが分野を越えて、知識や情報を分け合い生物に対しての知見を広げています。

フィールドでの活動では、生物を五感の全てを使って堪能しています。さらにはフィールド活動の後に、釣った魚を食べながら、これからの環境保護について熱く語ることもしばしばあります。

年に2・3回は子供たちに生物の素晴らしさ、環境の大切さを説くといったことを顧問の小林朋道先生のもとで行っています。

生物部は、設立からまだ2年ということで、発展途上の部活ではありますが、熱意や野望は他の部活動に引けを取りません。これからも鳥取県の恵まれた自然環境のなかで幅広く活動していきたいと思えます。

代表:鍛冶 美沙里(環境学部 2年)

学友会 活動報告

【第52回鳥取しゃんしゃん祭に参加して】



2016年8月14日、第52回鳥取しゃんしゃん祭の一斉傘踊りに、踊り子・スタッフ総勢100人の学生が参加しました。

総代・リーダーを中心として他学年との交流を深めながら、本番に向けて練習を重ねました。真夏の猛暑の中迎えた本番では、練習の成果を発揮するとともに、沿道の方々から声援をもらい、地域一体となって祭りを盛り上げることができました。踊り後には多くの学生が「参加してよかった」「来年も参加したい」と口に出し、大学生活のよい思い出を作ることができました。

第52回鳥取しゃんしゃん祭に参加するにあたり、様々な面でご協力いただいた皆様へ、この場をお借りして心より御礼申し上げます。TUESしゃんしゃん愛好会は、これからも学生と地域との交流をサポートし、さらに鳥取しゃんしゃん祭を盛り上げるよう精進して参ります。

TUESしゃんしゃん愛好会 代表:林 稔真(環境学部2年)

【環謝祭レポート】



2016年10月15日(土)、16日(日)、第16回環謝祭を開催しました。

今年のテーマは「Wave～共に環をつくる～」で、年に一度の学祭で学生はもちろんのこと、地域の方々や企業の皆様をつなぐ懸け橋のようなイベントにしたいという思いを込めたものです。

今年は、約40の企画や多種多様なイベント、約60の模擬店団体が出店し、環境に配慮するためのリターナブル食器を使用しました。また、浅井企画所属の「流れ星」と「石出奈々子」を招いた「爆笑お笑いLIVE」や、後夜祭で昨年度から実施しているミスTUESコンテストに加え、今年度の新企画ミスターTUESコンテストも大反響でした。

事前に鳥取市内の学校、企業等に開催告知ポスターを掲示していただけたことで多くの地域住民の皆様にご参加いただけました。

第16回環謝祭を開催するにあたり、ご協力いただいた皆様へ、この場をお借りして委員会を代表し、心より御礼申し上げます。来年度も多くの皆様のご来場を委員一同、心よりお待ちしております。

第16回公立鳥取環境大学 大学祭実行委員会
委員長:玉田 萌香(経営学部2年)



石炭鉱山を訪ねて 環境学部環境学科 横山 伸也 教授



最近、石炭鉱山と縁の深い北海道の釧路市と夕張市に行く機会があったので石炭の話をしたと思います。かつて、石炭はわが国の唯一のエネルギー源として産業振興に貢献し、黒ダイヤとも称された時代がありました。明治中期から九州と北海道を中心に採掘がはじまり、1960年代のエネルギー革命により石油に取って代わられました。最盛期には年間5,800万トンの出炭量を誇り炭鉱数も1,000を超えていました。しかし現在では、太平洋に面した北海道東部の釧路市にある釧路コールマイン株式会社（前身は太平洋炭礦株式会社）で採掘される約50万トンに過ぎません。この炭鉱の採炭現場の真上は太平洋であり海底炭鉱とも呼ばれています。調査で訪れた機会に頂戴した石炭サンプルを、講義やゼミの時に学生諸君に手に取って見てもらっています。ここは1884年（明治17年）に旧鳥取藩士約500名が、帆船で日本海を北上し津軽海洋を横切って移住のため上陸した地です。その後、筆舌に尽くしがたい労苦の果てに、この極寒の地を安住の地に変えたということです。市内には鳥取の名を冠した鳥取神社もあり、

当時の生活用具や農機具などが展示されています。

旧太平洋炭鉱と並んで北海道の石狩炭田の中心地として栄えていた夕張市は、1960年には人口が11万人を超えていましたが、すでに閉山に追い込まれて現在は人口も1万人を切っています。夕張市は2006年に財政破綻をしたことはよく知られています。ここにある石炭博物館には、鉱脈の発見に至った先人の足跡、石炭とともに歩んできた炭鉱町の日常の生活の記録、多くの人命を奪った坑内事故の報道記事、坑内の大型作業機械、工具などが展示されています。

国内での出炭量はわずかですが、2015年度にはわが国は1億9000万トンもの石炭を輸入しています。約60%は石炭火力発電用に、残りは製鉄用です。石炭は天然ガスなどに比べて価格が安い上に、わが国の石炭火力発電プラントは、発電効率が高く、かつ大気汚染物質などの排出抑制技術が優れているので、設備がフル稼働している状況です。石炭の可採年数は石油や天然ガスに比べて長いといわれてきました。しかし、1999年では227年だっ

た可採年数が2014年では109年と急激に短くなってきています。これは主に中国で近年生産量が急激に増大していることによります。経済成長により化石資源の需要が高まると共に、採掘技術が向上すればするほど、可採年数が益々短くなっていくことが予想されます。

可採年数といえば、石油のそれは30年前も40数年であり、現時点ではシェールオイルの開発が可能になっているので、枯渇化の心配をするのは無駄だという人もいます。しかし、まだ化石資源が残存しているうちに、いたずらに楽観的にも悲観的にもならず、次世代へ向けてしっかりした対応策を講ずることが必要と思っています。講義では、資源とエネルギーの問題を歴史的な視点、別な言い方をすれば少し長い時間軸の中で捉えられるようにしたいと日々考えている次第です。

人事報告



| 着 | 任 | 挨 | 拶 |

経営学部 川崎 紘宗 講師

2016年10月に経営学部に着任いたしました。本学では商業簿記1、原価計算論と管理会計等の講義を担当します。私は「予算管理」が専門ですので、先の三つの講義の内容を基に研究を行っております。

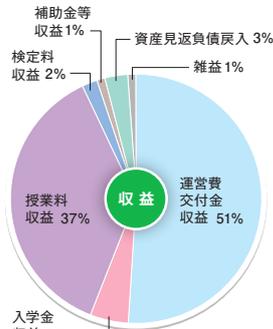
様々な組織において経営戦略を実行に移し、PDCAサイクルを回すためには、簿記の知識、コストの概念、会計情報を駆使した経営管理の手法を学ぶことが重要となってきます。一般に多くの学生の方は、簿記に苦手意識を持っています。やはり簿記は会計学の基礎として重要な学問ですので、皆さんが「なぜ」と感じる点を、理由を説明しながら丁寧に講義したいと考えています。もちろん他の講義でも同様に努力いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2015年度の決算の概要は次のとおりです。

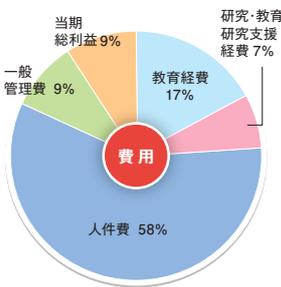
詳しい情報は公式ホームページでご確認ください。 http://www.kankyo-u.ac.jp/about/announcement/report_since2012/

損益計算書

収 益		
項目	金額(円)	割合(%)
運営費交付金収益	824,048,454	51%
入学金収益	79,900,000	5%
授業料収益	592,925,879	37%
検定料収益	29,382,000	2%
受託研究・事業等収益	4,754,970	0%
補助金等収益	13,128,221	1%
寄附金収益	1,019,559	0%
資産見返負債戻入	47,475,914	3%
財務収益	9,076,084	0%
雑益	22,246,889	1%
合計	1,623,957,970	100%



費 用		
項目	金額(円)	割合(%)
教育経費	268,612,815	17%
研究・教育研究支援経費	111,275,194	7%
受託研究・事業費	3,933,318	0%
人件費	949,366,618	58%
一般管理費	149,062,316	9%
財務費用等	453,557	0%
当期総利益	141,254,152	9%
合計	1,623,957,970	100%



収 益

大学の収益は主に、設置者(鳥取県及び鳥取市)からの運営費交付金(51%)と学生からの授業料、入学金等の納付金(44%)です。

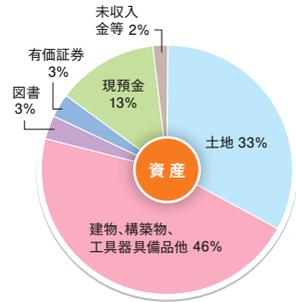
費 用

大学の費用は主に、教育経費(17%)、研究・教育研究支援経費(7%)、役員・教職員の人件費(58%)、一般管理費(9%)となっています。また、当期総利益(9%)141,254千円全額を目的積立金とすることが設置者より承認されています。

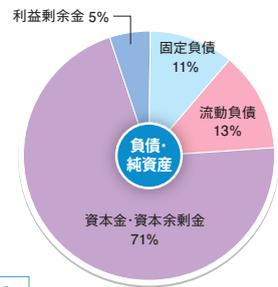
※目的積立金:大学が定める目的(学生の教育の質の向上及び施設設備の改善)のために、次年度以降に支出できる資金です。

貸借対照表

資 産		
項目	金額(円)	割合(%)
土地	3,514,650,000	33%
建物、構築物、 工具器具備品他	4,826,259,652	46%
図書	337,001,588	3%
有価証券等	300,549,002	3%
現預金	1,341,875,735	13%
未収入金等	206,047,605	2%
合計	10,526,383,582	100%



負債・純資産		
項目	金額(円)	割合(%)
固定負債	1,141,911,220	11%
流動負債	1,338,697,331	13%
資本金・資本剰余金	7,501,509,678	71%
利益剰余金	544,265,353	5%
合計	10,526,383,582	100%



資 産

大学の保有する資産はその大部分が土地・建物等(79%)ですが、有価証券・現預金も16%を占めています。また、図書は全体の3%となります。

負債・純資産

資本金は設置者から出資を受けたものです(鳥取県50%、鳥取市50%)。また、流動負債の81%は寄附金債務で、固定負債の99%は資産見返負債です。

※寄附金債務:寄附金のうち次年度以降に支出できるもので、見合いの資金を資産で保有しています。
資産見返負債:運営費交付金等で取得した固定資産の見合いの金額を減価償却費にあてるため計上するものです。
この2つは地方独立行政法人会計に特有の勘定科目です。

大学からのお知らせ

大講義棟建築工事進捗状況

2016年8月より、サステイナビリティ研究所北側に、2階建ての大講義棟を建築しています。1階に301人、2階に358人収容でき、2017年7月に完成予定です。屋上緑化、複層ガラス等による内部空間、講義に集中するための音響設備の整備により、快適な学習空間を学生に提供していきます。



2016年度 学部・大学院学位授与式

2016年度公立鳥取環境大学 学部・大学院学位授与式を下記の通り執り行います。本学での大学生活において、大いに学び、多くの経験を得ました。それらを胸に、大きく羽ばたいていく学生たちの晴れ姿をぜひご覧ください。ご家族の皆様をはじめ多数のご来場を心よりお待ちしております。詳細は、ホームページにてご案内いたします。



【日時】2017年3月18日(土)
●受付開始/9:30 ●開 式/10:00 ●終了予定/12:30
【会場】とりぎん文化会館 梨花ホール(鳥取市尚徳町101)

〈お問い合わせ先〉公立鳥取環境大学総務課 TEL/(0857)38-6700

「公立鳥取環境大学の今」を発信!

TwitterやFacebookページなどで公立鳥取環境大学の最新情報を発信しています。パンフレットや公式ホームページでは紹介しきれないニュースや出来事など「公立鳥取環境大学の今」を発信しています。



ソーシャル・メディア公式アカウント一覧 http://www.kankyo-u.ac.jp/about/social_m/

Facebook, Twitter, YouTube icons and text: ソーシャルメディア運用中!